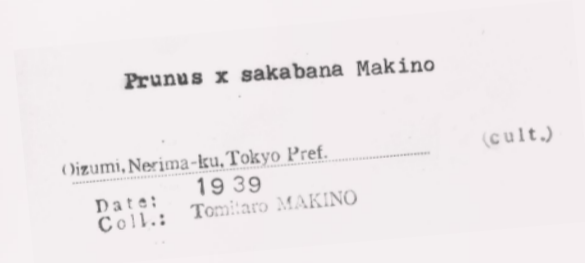


MAKINO 植物の肖像展

菅原一剛が写した牧野富太郎の標本



Ichigo Sugawara 7.15 sat. — 10.1 sun. 2023

MAKINO
Botanical Art
Project

高知 牧野植物園
The Kochi Prefectural Makino Botanical Garden

企画展 菅原一剛「MAKINO 植物の肖像」展 会場: 高知県立牧野植物園 牧野富太郎記念館 展示館 企画展示室・植物画ギャラリー 開園時間: 9:00~17:00(最終入園16:30)

[共催] MAKINO Botanical Art Project、公益財団法人高知県牧野記念財団

[特別協力] 高知新聞社 [協力] 高知県、東京都立大学 牧野標本館、里見デザイン室 [後援] 株式会社北隆館 [協賛] 株式会社トリプルクラウンズ、大洋印刷株式会社

Event Information

ギャラリートーク「さくら色とみどり色」参加無料(別途入園料必要)

2023年7月16日(日)15:00~16:00 会場: 展示館 企画展示室

写真家・菅原一剛、展示デザイナー・里見和彦 定員: 15名

※当日14:50から会場入口にて受付開始(先着順)。

開催予定サイドイベント 参加無料(別途入園料必要)※事前予約制

「植物標本をつくってみよう」

2023年8月5日(土)10:00~12:00 会場: 本館 アトリエ実習室

講師: 牧野植物園 職員 定員: 10名 対象: 小学生

※事前予約は7月5日(水)9:00から牧野植物園HPにて受付開始(先着順)。

「植物で染めてみよう(藍染体験)」開催予定

講師: 藍師・染師 渡邊健太

※藍染体験の詳細・事前予約は特設HP(www.makinobapj.com/syozo2023)にてご確認ください。

特設HP



植物分類学者・牧野富太郎博士は、94年の生涯で約40万枚もの植物標本を収集しました。「牧野標本」と呼ばれるこれらの標本類の中でも、博士が自ら作成した標本は100年以上を経た今も生命感を宿し、研究資料としての価値とともに博士が植物研究にささげた情熱を伝えていきます。写真家・菅原一剛は「牧野標本」の生命感と独自の美しさに感銘を受け、標本となった植物一点一点の「肖像写真」を撮影しました。本展は本来、科学的資料である「牧野標本」を、アートとサイエンスふたつの視点から紐解く初の試みです。ART(アートの色)とSCIENCE(みどり色)をテーマにしたそれぞれの空間で「牧野標本」の深淵にふれる時間が流れます。

ART

Room 1 さくら色

高知県立牧野植物園が所蔵する牧野標本は約5,500枚。その中から博士の研究フィールドの広さが伺える41枚が厳選され、世界最高水準の1億5千万画素のデジタルカメラと技術を駆使して撮影されました。肖像写真を撮るようにまっすぐに光をあてて撮影したことで、植物の微細な陰影が立体的に写し出された「新たなボタニカルアート」ともいえる標本写真の十数点をお楽しみいただけます。Room 1では桜を愛した博士の庭に植えられていた「センダイヨシノ」を、拡大プリントと高精細なピンクプラチナプリントで展示。さらに、本展示に際して特別に100×150cmに拡大された「植物の肖像」では、博士が顕微鏡を通して見ていたであろう葉脈まで精細に見ることができ、植物のミクロの世界を体感いただけます。

Ichigo Sugawara

菅原 一剛 (1960-)

大阪芸術大学芸術学部写真学科卒。早崎治氏に師事後、フランスにて写真家として活動を開始。数々の個展を開催するほか映画の撮影監督も手掛ける。2005年アニメ『蟲師』のOP・EDディレクターを務める。2023年青森県立美術館にて個展「発光」を開催。同年2月『MAKINO 植物の肖像』（北隆館）刊行。日本赤十字社永年カメラマン。大阪芸術大学客員教授。
www.ichigosugawara.com

植物に感謝しなさい。
植物がなければ人間は生きられません。
植物を愛すれば、
世界中から争いがなくなるでしょう。

牧野 富太郎



Room 2 みどり色

博士は標本をつくる際、多くの個体を観察し典型ないしは標準的であるかを徹底的に吟味したといわれ、採集した植物はその日うちに新聞紙にのせ、標本にするために形を整えていました。「牧野標本」の特徴は、植物学的な確さと情報の集約にあります。博士にとって標本がなくてはならない資料であったと同時に、植物の姿を余すところなく永遠に残そうとした真摯さの結実であったとも見とれます。

Room 2では個々の植物のプロフィールとともに、被写体となった牧野標本と貴重な資料などを特別展示。さらに現在牧野植物園のある五台山で牧野博士が採集した「ビロードムラサキ」の標本から、時代や場所を超えて受け継がれていく植物標本の奥深さをご紹介します。また、標本を通じたロシアの植物学者・マキシモヴィッチ博士との交流や、妻の名前を冠した「スエゴザサ」発見のサイドストーリーなどもご覧いただけます。

Dr. Tomitaro Makino

牧野 富太郎 (1862-1957)

高知県高岡郡佐川町生まれ。自然豊かな土佐の風土の中、幼い頃より植物を友として育つ。10代で漢学、英語、地理、天文学などあらゆる学問を学んだのち、小学校を2年で自主退学。22歳で上京し、東京大学理学部植物学教室に入りをゆるされるなど、学歴を超えた独自の活動で黎明期の日本の植物学を押し上げた。フィールドで培った知見と古今東西の書物から得た膨大な知識をもとに独学で植物を研究し、その知識を惜しみなく人々に広めた。94年の生涯を通じて集めた標本は約40万枚にのぼる。1953年東京都名誉都民。1957年文化勲章受章。

MAKINO Botanical Art Project

牧野富太郎博士の生誕160年の朝、さくら色の「センダイヨシノ」の標本写真が高知新聞を包み、約16万世帯に配布され大きな反響を呼びました。菅原一剛が撮影した牧野博士の標本写真を通して、平和を願うメッセージを国内外に伝えています。 www.makinobapj.com

お問い合わせ

MAKINO Botanical Art Project 事務局 Tel 03-5829-4956
菅原一剛「MAKINO 植物の肖像」展 特設サイト
www.makinobapj.com/syozo2023

特設HP



Instagram



ご利用案内

- 開園時間／9:00～17:00(最終入園16:30)
- 休園日／年末年始(12月27日～1月1日) ※メンテナンス休園あり
- 入園料／一般730円(高校生以下無料)、団体630円(20名以上)
- 年間入園券2,930円(1年間有効のフリーパス)
- ※身体障がい者手帳・精神障がい者保健福祉手帳・療育手帳・戦傷病者手帳・被爆者健康手帳所持者と介護者1名および高知市・高知県長寿手帳所持者は無料。 ※車いす・ベビーカー貸出無料。
- 以下のクレジットカード、電子マネーをご利用いただけます。
JCB、VISA、mastercard、AMERICAN EXPRESS
Suica、PASMO、QUICPay、楽天Edy、WAON、nanaco、iD、UnionPay銀聯

表紙写真 センダイヨシノの標本 中面写真 ビロードムラサキの標本
高知県立牧野植物園 〒781-8125 高知市五台山4200-6
Tel 088-882-2601 Fax 088-882-8635 www.makino.or.jp

牧野植物園HP



交通案内 駐車場無料、普通車225台、バス6台



- はりまや橋から車で約20分 ●高知自動車道「高知IC」から一般道で約20分 ●高知東部自動車道「高知南IC」から約15分 ●高知龍馬空港から高知東部自動車道経由で約25分。 ※道路案内板の「五台山」または、「牧野植物園」「竹林寺」を目指してお越しください ●JR高知駅から周遊観光バス「MY遊バス」で約30分(バス料金:五台山券600円)。
- 運行について / とさでん交通(株) Tel 088-833-7171
- 乗車券について / (公財)高知県観光コンベンション協会 Tel 088-823-1434